

## 2023 年度第 2 回地域会議 議事概要

2024 年 3 月 29 日（金）、六ヶ所村内において地域会議を開催しました。

当会議は、日本原燃(株)が地域の皆さまから信頼していただける企業となることを目指し、弊社経営層が直接地域の皆さまのご意見やご指摘などをお伺いして、事業活動に活かしていくことを目的に開催しているものです。

### 【委員】

議長	佐藤 敬	様	青森中央学院大学	学長
	芦野 英子	様	エッセイスト	
	上長根 浅吉	様	(株)浅工務店	代表取締役
	菊池 としえ	様	六ヶ所村女性団体連絡協議会	会長
	北村 真夕美	様	(株)青森経営研究所	代表取締役社長
	武輪 俊彦	様	武輪水産(株)	代表取締役社長

### 【議事次第】

1. 社長挨拶
2. 資料説明  
資料「原子燃料サイクル事業の現状について」
3. 意見交換

### 【議事概要】

#### ◆社長挨拶

本日は年度末のお忙しいところ、今年度 2 回目の地域会議にご出席いただき、また、日頃から当社事業に対しご理解とご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

本日は、各事業の現状をご説明させていただいた後、ウラン濃縮工場と低レベル放射性廃棄物埋設センター、再処理工場の安全性向上対策工事の現場などをご確認いただく。

皆さまに現場のご案内をさせていただくのは、2021 年 8 月以来で、当時から安全対策が進んだ現場の様子をご覧いただけるのではないかと思います。ぜひ、忌憚のないご意見を賜りたい。

今年は当社にとって、再処理工場と MOX 燃料工場をしゅん工させ、ウラン濃縮工場と低レベル放射性廃棄物埋設センターの操業を安全かつ安定的に行う、とても重要な年だと思っている。

安全を最優先に、原子燃料サイクルの一日も早い確立に向け、全力で取り組む所存である。引き続き、ご指導をよろしく願いたい。

## ◆意見交換概要

### 【テーマ】

- ・現場を実際にご覧になった際のご意見
- ・原子燃料サイクル事業についてのご意見



意見交換の様子

【委員】 実際に拝見し、かなりの設備だと感じた。再処理工場を稼働していただかないと、これまでの投資が十分生かされないということになる。再処理工場は、国内の原子力発電所に関連する施設である。上手く稼働しないと、大きな社会資本の損失となるため早く稼働させていただきたい。

竜巻対策など、本当に万が一の対策に対応されている。当初、想定された以上の対応がされており、管理する社員の皆さんも大変なご苦労だと思う。また、緊張感を持ってあたらなければならない事業だと思うが、十分に管理をしながら業務にあたっていただきたい。

【委員】 早く再処理工場を完成させてほしい。

災害が起きた時に使う水については、貯水槽などの安全対策をしているとのことだが、建物の周りを見ると消火栓が少ないよう

を感じる。万が一の際、ポンプ車が動くというが、消火栓が足りないのではないか。

【委員】 万が一のことまでも対策していると感じた。道路ののり面もなだらかにして、想定される災害に限りなく対応している。このような対応を見ると、いつ完成するのかという気なる。社長は完成が上期とおっしゃったが、地域住民として大丈夫なのか心配になる。

また、消防設備が整理整頓されすぎていると感じた。火事などでいざ出動という時に迅速に対応できるのか、という感じを受けた。少し言葉が悪いかもしれないが、私たちの感覚では、整理整頓しすぎると、装備を使う際にかえって時間がかかる感じがする。常々、訓練をしているということで心配はないが、整理整頓されすぎていることが心配になった。

【委員】 施設の規模が大きく、社員の方は設備の管理などいろいろなことに苦勞されていると感じた。こういった施設は、次々に新しいことが起き、また、それに対処していかなければならない。社員は苦勞していると思うが、今後ともしっかり対応いただきたい。

【委員】 幾度目か、となるが、今回の視察では各種整備の進捗が目ざましいと感じた。

原子力規制庁には、想定外の想定までを求められているとのこと。住民としては、至極当然のことと受けとめている。

国家的なプロジェクトとの位置づけのもと、確固たる事業予算によって、着実な事業の進展を強く願いたいところである。

日本原燃には多くの視察者が訪れていて、最近では、ジュリア・ロングボトム駐日英国大使が来られたり、世界各国から多様な来訪者が続いているとのこと。

現場の懸命の取組みにエールをいただいているような気がする。

【委員】 2021年8月と今回視察し、来るたびに感じることは、一つは、業務に携わっている社員の方の取組みが非常にしっかりしている、使命感を持って取り組んでおられるという印象を今日も持たせていただいた。これは、社長はじめ幹部の方々の管理・運営の賜物だと思う。大変好感を持った。

二つ目は他の委員の方々から言及があったが、二重三重のセー

フティーネット、安全の限界を想定し整備されている。車両にしてもこれほど必要なのかという印象を持った。メンテナンスだけでも大変なのではないかなという印象だ。こういった、安全設備等が稼働しないことが理想だが、一方で、シミュレーション等も日々やっているということで、心配はないと思う。もしかしたら、少し過剰になっているのではというのが率直な印象である。

それから、MOX燃料工場が稼働間近であり、使用済燃料の貯蔵施設もほぼ満杯と伺った。再処理が進むことを願っている。口で言うほど、簡単なことではないと思うが、これは、専門家である皆さんにお願いするしかないと思う。遠くから応援したいと思う。

【委員】 ここ数年、各地の原子力発電所の施設を視察させていただいている。そこに勤務する方々との懇談や、それぞれの施設のありようからは大きな示唆を得、意義深いものとなっている。

昨年は、福島第一原子力発電所のALPS処理水の海洋放出状況を視察させていただいた。質問の機会を得て、ALPSのフィルター交換の頻度や、フィルターの素材の特異性などについて尋ねたところ、後日、ご丁寧に参考資料をお送りいただいた。

【委員】 地域の理解活動で、昨年、久しぶりに日本原燃による全戸訪問があった。コロナ禍で全戸訪問がなかったため、地域の話題にならなかった。たまたま来た方々に、少し休んでいってと声をかけたら、いろいろな話をされて、親しみを持てる感じがした。六ヶ所村に来たのが初めてという若い社員の方は大変だと思うが、全戸訪問は非常に評判が良いので今後も続けてほしい。

それから、福島第一原子力発電所のALPS処理水の件はしっかり視察させていただいた。「大丈夫だ」と新聞記事で見ても、一抹の不安があった。ろ過設備を視察し、これなら良いのではないかと感じた。多くの方が視察できれば良いと感じた。

【委員】 最近、再処理施設の照明が切れたことをニュースで見た。昨年度同会議で伺った件だった。なぜ、今頃またその話が報道されたのか。原子力規制委員会で社長が説明したから報道されたのか。

【当社】 2023年3月に原子力規制庁に報告書を提出して、その後、ご了解いただくまでに一年かかった。保障措置は大変重要な問題だと

いうのはよく理解している。原子力規制庁も日本全体の保障措置の言わば教科書を作るにあたって、我々を中心に考えなくてはならないということで、やり取りさせていただいた。当社が人員を増やして新たな組織を立ち上げたり、改善をして2024年2月に報告書を受け取っていただいた。その後、社長がどう考えているのか確認するというので、今年3月に規制委員会で説明した様子が報道されたものである。一年かかってしまい、ご心配をおかけした。

続けて、いただいたご質問にお答えする。

まずは、屋外の消火栓が少なすぎるのではないかとのご質問については、再度確認して回答する。(後日、屋外消火栓等の設置状況を委員へ回答済み)

次に、火事の時、整理整頓されすぎていて迅速に出動ができないのではないかとのご懸念だが、確かに片付け方が重要で、プロに言わせると、訓練をやるのは良いが、訓練が終わった後に如何に上手く片付けるかが次の動作が速やかに行われることに繋がると言われている。今、片付け方を練習しているところである。いざという時に、すぐに活動できるというのが大事だとプロからも指導を受けている。

【委員】 片付けすぎも探せなくなる。

【当社】 そういったことも指導を受けていて、ホースの片付け方も丸めると出しづらくなる。折り曲げるとすぐ出せるとか、いろいろな教育を受け訓練に取り組んでいる。

車両のメンテナンスについては、必要台数の2倍プラス1台というのが規制の要求事項になっている。いざという時に動かなければ意味がない。普段からメンテナンスをしっかりと、動くようにしておく必要があると考えている。

社員へのお褒めの言葉をいただき感謝する。使命感を持ってやっているとおっしゃっていただけることは非常にありがたい。

特に、濃縮については、学会のような発表の場がなく、外にアピールもできない。いただいた言葉を社員に紹介しながら、頑張れと伝えて、皆を勇気づけていきたいと思う。

【委員】 おっしゃるとおり、濃縮は研究開発に注力し、遠心機の開発をされている。研究成果を一般的には論文として公表して、世界にアピ

ールできるのだろうが、そうもいかない。良い物ができれば満足感はあるかもしれないが。そういう意味でも大変だと思う。

【当 社】 社員は、技術に誇りを持っている。我々のような技術を持った会社はない。我々も世界に貢献できるようになるのではないかと思う。何か良い形で目指せればと思う。世の中に貢献できる技術だと社員に強く訴えていきたいと思う。社員も目指せるものがあればやる気になると思う。

以 上